平成３０年度　第２回　国見町子ども・子育て支援推進協議会　会議録

とき　　平成３１年２月４日（月）10：00～11：45
ところ　くにみ幼稚園

《出席者》
委　員：紺野由美、中村裕美、菊地沙織、今村幸子、藤田誠也、柴田千賀子、鈴木智子、
藤田喬士、菊地勝彦、山中啓嗣、八巻忠一
（欠席：樋口美樹、菊地純子）
事務局：岡﨑教育長、中田幼児教育課長、石澤補佐、佐藤主任主査
進　行：中田課長

１．開会
課長による開会
２．教育長あいさつ
お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。皆様ご存知のように国見町は平成２４年度に小学校を統合し、２５年には保育所、幼稚園を整備致しました。０歳から２歳までが保育所、そのあと幼稚園、小学校、中学校という体制で現在まで来ております。放課後の子ども達の活動については、皆様のご意見を頂きながら進めてきたところであります。来年度からはまた改定となりますので、子ども達の様子を見ていただき、思っていらっしゃることがあれば、どんどん取り入れていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いします。
３．会長あいさつ
委員の皆様いつも大変お世話になっております。本日は間もなく年度末を迎えようとするお忙しい時期に、また最近インフルエンザの罹患もはやっております。そういった気候の変動が大変激しい中、お集まりいただきありがとうございます。早速幼稚園の子ども達の様子を見ていただきましたが、こちらはインフルエンザは猛威を振るっていないように思えました。私が参りました仙台大学の仙南地区は大変な猛威を振るっておりまして、学級閉鎖や保育園、幼稚園の閉鎖が日に日に増えています。年度末の今日は盛りだくさんの議題になっており、早速春の訪れと共に次年度に向けて動き始めております。今日見ていただきました子ども達の関わりの様子なども頭に置きながら、次年度のことを見据えてご意見ご助言をいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。
４．議題
（１）平成３０年度子ども・子育て支援事業の取り組み状況について
事務局より取り組み状況についての説明
八巻委員：ももたん広場が大変好評なようで１７５，０００人ほどの利用をいただいており大変ありがたく思います。その中で町外の方が多くいらっしゃるのではないかと思います。参考までに町内外の割合をお願いします。それとアンケート結果なのですが、記名と無記名では記名のほうが回収率が高いので記名のほうがよいのではないかと思います。
柴田会長：屋内遊び場の利用状況について町内外のデータなどございますか。ここで示していただける内容がございましたらお願いいたします。
中田課長：毎月地区ごとに集計は取っております。今手元に詳しい資料はありませんが町外は約７０％そのうち半分以上が宮城県の方が多いです。その中でも最近は幼稚園、保育所の団体

利用が平日多くなっております。仙台の方面からいらっしゃっているので範囲が広くなっていると思います。県外は道の駅が出来たことにより、道の駅は小さい子どもが対象の木育広場ですので大きい子どもはももたん広場を紹介します。そちらのほうで思いっきり遊んでいただくようにしております。県外では、関東、関西も、ももたん広場を利用している状況にあります。

柴田会長：思った以上に町外の方の利用のパーセンテージが大きく驚きました。こうした遊び場を足掛かりに、遊びの質について考えていただくきっかけにもなる生かせるデータと思います。

柴田会長：もう一点、ご意見いただきましたアンケートの結果ですが記名にすると誰が出しているか、出してないかの把握もされると思います。記名と無記名のアンケートの内容は違うものになるのでしょうか。

中田課長：内容については結果を資料に記載しております。保育所に関しましては昨年度から記名にすることで昨年度は回収率１００％でした。自分で答えたことに責任を持ってもらうということで保育所では昨年度から記名で実施しております。今回の子どもクラブのアンケートについては、記名の場合本当の意見が出てこないのでは、とのことで今回は無記名にしました。丁度この時期に別のアンケートが小学校のほうであり、重なった為に保護者の方で期日が合わなかったことが回収率が低かった要因と考えられます。記名、無記名については記名の方向で今後考えていきたいと思います。

柴田会長：ご報告ありましたように記名にすると見えてこない声というのもあります。内容によっては使い分けることが当然必要になってくると思います。そして実施時期によって回収率が大きく変わってくると結果として出ているようです。今後は重なるのはしょうがないことですが負担という点も考慮しながら優先順位をつけて実施していただいて、工夫した点も今後教えていただけると、どのように改善されたのかを委員の皆様にも周知していただけるとよろしいかと思います。

鈴木委員：放課後児童健全育成事業の中の状況なのですが、補助員８名の内学生３名と記載されているのですが、こちら当校の子ども学科の学生 3 名がお世話になっております。資格がまだ無い中にありながらこういったことでご支援いただいていること、本当に感謝申し上げます。そのうち２名が今年卒業になりました。日中は大学で学び、夜は現場へ、とそのために先生方に協力をいただきました。２人は別の現場へ、一人は行政に、それぞれ方向性は決まりました。二年間で学生が本当に成長し、国見町では地域の学生を本当に大切にしてくださっています。今本当に保育者の不足と言うこともありまして、そういった中で学生が仕事に意欲を持てるような環境を作っていただけていることを心より感謝を申し上げます。今後ともよろしくお願いします。保育所の一時預かりについてですが、4 月 5 月について私のほうでは人数が少ないと思っていました。しかし４月５月であると新乳児が入所したり、保育所のほうもなかなか落ち着かない状況で一時預かりをストップして５月の連休明けぐらいからと聞くこともあります。国見町のデータを見させていただくと、４月５月の利用があるのでこれこそ子育て支援ということになるのでしょう。４月から受け入れがあると保護者の方も大変助かっているのではないかと思いました。昨年度までも４月の受け入れをしていましたか。

中田課長：行事関係でお断りする場合もありましたが、そうでない限り受け入れをしていました。

藤田喬士委員：子育て支援センターについて、道の駅のほうは膨大な数になっております。これは年間利用者ですか。町としてこの利用状況は満足できるものなのか伺いたいです。

石澤補佐：つながる～むの支援センターは、道の駅木育広場にございます。木のおもちゃなどで遊んでいただく場所です。つながる～むの利用の数字について大体は遊び場の利用になっています。利用の数字的な部分で申しますとサークルなどは定員などある受付が多く自ずと頭打ちの数字が決まってくる部分もございます。特徴的なのは藤田保育所については町内の利用がほぼ１００％、つながる～むについてはほとんどが町外、近隣の福島市、伊達市、桑折町の方の利用の割合が圧倒的という内容になっています。利用者の数字の差は木育広場の部分が大きく影響しています。

藤田喬士委員：藤田保育所内の子育て支援センターの内容をお伺いしたいのですが。

中田課長：ニコニコ相談会は、年間計画に基づき保健師・管理栄養士が保育所に赴きまして０歳児から２歳児の親子と相談やレクリエーションを定期的に行っており、対象は主に在宅のお子さんになりますので数字が低くなります。子育て広場は、在宅の親子が保育所に行き、保育所の児童と一緒に遊ぶという内容です。国見町では、０歳児から２歳児のほとんどが保育所に行っており、幼稚園児相当年齢の子ども達は、くにみ幼稚園に行っています。そのため在宅の乳幼児が少ない事から、町内の子育て支援センターの利用者がこのように状況になっています。

柴田会長：藤田保育所内での支援の内容では育児相談について保健師、栄養士が来て相談をするイメージでよろしいですか。

中田課長：はい。また、イキイキ子育てクラブでも年間計画により親子で活動しています。

柴田会長：ではこの藤田保育所での数字が少ないのは、相談したくても行きづらい、受け入れ態勢が整っていないなどではなく、利用の方向性が保育所の支援センターを利用する人数が、このくらいの数で毎年整備している充実した中での数字と言うことでよろしいですか。

中田課長：はい。保健師のほうからも検診のときにこのような事業をしている等の広報を直接お話しして周知などもしております。

柴田会長：町のほうで、もっと利用してもらうことが必要と思える側面はありますか。今のところは滞りなく利用していただいていますか。

岡﨑教育長：藤田保育所で行っている子育て広場、ニコニコ相談会は事務局で話したように、国見町では保育所に０歳児から預ける方が多いというのがあります。つまり子育て広場などの需要があまり高くない事実はあると思います。保護者の立場で考えていくと、広報、ＨＰでの周知で実際に家庭に届いているのだろうか。教育委員会だけではなく保健福祉課のほうからも周知しているが、保護者が理解するまでの周知かできているのか、そのあたりの工夫が出来ればということが反省点の一つとしてあります。

中田課長：今の子育ては共働きが多く、忙しい状況があるので本当にこういったことだけでいいのか、その点については意見をだしていただき来年度計られればよいと考えているところです。実際には色々な悩みがあり、相談したいところであるのかなと思います。これは藤田保育所にはもともとある機能です。道の駅のほうのメインは子どもの遊び場なので自由にきて遊んでよい広場ですが、そこにも相談機能を付け加えています。ただ、道の駅のほうは町外の方が多いので相談されている方はほとんど町外の方、という現状があります。町内の方にも

道の駅の相談機能を利用していただきたいと考えており、広報の仕方も工夫していきたいと思います。

柴田会長：事務局から内容の充実と広報に関しては今後検討の余地ありと、また現在協議中のところもあるとありました。そのことにつきまして藤田委員お願いします。

藤田喬士委員：道の駅のほうは登録制でないと承知しておりますが、保育所のほうは登録制になりますか。予約など無しで行ってもいいのですか。

中田課長：町内の方であればいつでも利用いただけます。

柴田会長：国見学園アクティブプランについての調査結果が出てきました。多岐にわたる包括的な内容を示していただいたので、町の皆さんの感想など上がっていたら示していただきたく、事例などもありましたらお教えいただきたいです。事務局での所見で目に見えて実感を伴い、前向きになった部分などあれば参考にできるのですか。

中田課長：三つの柱の中で郷土の愛を育む、こちらについてボランティアの皆さんがそれぞれ保育所、幼稚園に行って子ども達に演奏やお話しなどを子ども達と一緒に活動する場というのが増えてきております。幼稚園においてはこれから鉛筆入門、これから一年生になる年長さんに鉛筆を正しい持ち方を教えたり、レクおばさんといって、レクリエーションの資格を持った方が毎月来て、踊ったり歌ったり色々な事をして楽しむなどやっております。コミュニティスクールの中でそれぞれ幼稚園、小学校、中学校に行き、それぞれの課題を幼稚園なりに学校から挙げていただいた点について、話し合いをして来年の計画にこういったのを入れたい、ならば地域でサポートします、とだんだんと地域の方にコミュニティスクールというのが浸透してきたと感じています。ただ地域の方といっても保護者の方がなかなか参加できていないというのが課題になっており、今後いかに保護者の方に参加してもらえるかとの話がありました。

柴田会長：今報告していただいたことで、町全体が動き始めている動きのようなものを理解することができました。取り組みの成果として発信、町民の共通認識を図ることは大変難しいことだと思います。是非周知の仕方や取り組みの成果の出し方、この国見学園アクティブプラン報告に全て含まれると思います。読み解くのに温度差など、認識の違いなどが生まれてくることもあります。エピソードを元に写真などでポートフォリオのような形にしてこういった活動をしている等、どこかで貸し出されると大変実感が沸くのかなと思いました。

鈴木委員　：少子高齢化社会の中ほとんどが核家族という状況です。他世代とかかわること無く大人になっていく子ども達にとって、人間関係がとても大事になります。先日も授業で学生に豆まきをしたか聞いたところ、豆まきも核家族になるとクラス５０人の中で１０人くらいしかしてない状況です。今日は子ども達がつくった大きな鬼を見せていただき、日本の伝統行事、そういったことにも触れないまま成長してきている子ども達が増えている中、郷土愛ということで国見町に伝わる文化を子ども達に継承していくこともとても大事だと思いました。そういったことで成果が出ているので、なくしてはならないものを次の世代にしっかりと繋いでいかなければならないということを私自身も実感しております。

柴田会長：これからの国見学園アクティブプランの期待が大きいということで、ご報告していただけることを楽しみにしております。

（２）平成３１年度幼稚園、保育所等の児童数について

（３）平成３１年度事業について

事務局より説明

藤田喬士委員:未就学児言語指導事業で３１年度から町単独とのことですか場所はどこで行うのですか。

岡﨑教育長：くにみ幼稚園で計画しております。今までは伊達市に乗る形で実施してきたのですが伊達市のほうから余力が無いということで３１年度は国見町、桑折町は各自治体でとのことになります。どのくらい出来るかの詳細はまだになりますが、場所はくにみ幼稚園で行いたいと思っております。

藤田喬士委員：今までは上保原のことばの教室でしたので、こういった施設に人員を配置し予算化して実施できるということはすばらしいことと思います。

柴田会長：保育実践の場との繋がりにおいても物理的な距離の短さ、保護者への負担の軽減、何より包括的にまわっていくということは大変期待が持てると思います。取り組んでその後、どこかのタイミングでご報告していただければと思います。

中村委員：未就学児への指導のみで小学生などは利用できないのか。

岡﨑教育長：今回ここで挙げたのは未就学児、幼稚園まで、が対象でそれ以上になりますと義務教育となりましてそこはまた上保原小学校で対応可能ということなので国見町では段階的にやっていければと思っております。

中村委員：言葉の遅れがあると指摘を受けたが、上保原小学校へ連れて行く時間が無い、それで行かないとうことがあったので近くにあれば行けたのではないかと思いました。

柴田会長：貴重なご意見ありがとうございます。そこも受けての第一歩ということで、段階的にとご回答がありました。これを踏まえて次へと考慮していただければと思います。事務局から補足はありますか。

岡﨑教育長：繰り返しになりますが;幼児教育のほうでスタートとなります。小学校中学校に関して中学校は無いですが小学校のほうは継続できる形にしていきたいと思っております。幼稚園に専門的な方がいれば、小学校に行ったとしてもこちらで相談が出来るということになるので、今までより環境として改善できるのではないかと思っております。我々も専門職員を研修するところから初めて、用具等、専門的な検査などこれからスタートするものです。まだまだ満足できるものではないかもしれませんが、順次取り組みますのでよろしくお願いします。

柴田会長：切れ目の無い支援に向けてスタートを切ったところです。ご意見を寄せていただきながらいい形をつくっていくようになると思います。

（４）子育て支援（応援）ガイドブック改訂（案）

事務局より説明

柴田会長：あくまでも暫定版ということですね。カレンダーが表になっている等、前回の意見が反映され工夫が見られました。委員の皆さんはご覧いただきましていかがでしょうか。

中村委員：産後のお母さんは忙しくスケジュールを立てるのが大変だと思います。表で見るこの予防接種の推奨期間を目指して実施できるのでとてもいいと思います。またＱＲコードなどの活用もできるようになるのもとても良いと思います。

柴田会長：声を反映していただき見やすいという声をいただきました。保護者の皆様の目線から見ていただいていかがでしょうか。

菊地委員：誰に聞いていいかわからないことなどに関して、かかりつけの病院など載っているのでわかりやすくよかったと思います。

柴田会長：見やすさなど第一印象になると思います。今後こちらにカラーであったりイラストであったりになるのでしょうか。

石澤補佐：今後の予算次第でやりたいと思っております。

柴田会長：現時点での方向性はカラーになる予定ですか。

中田課長：カラーといっても二色か三色刷りになると思います。

柴田会長：それだけでも手に取りやすさが違うと思います。

中田課長：このガイドブックのサイズについてはどうでしょうか。市町村によってはとてもコンパクトなものであったりします。前回はＡ４サイズで大きかったのですが実際手にとって見るほうとしてはどうでしょうか。

中村委員：小さいほうがすぐ手にとれるというのがあると思います。しかし沢山の情報が載っておりますし予防接種のスケジュールなど細かいと見にくく、最初のうちは毎月予定があるので、見るのにはこの大きさがいいです。

柴田会長：カレンダーのように貼っておくなどする場合この大きさだと丁度いいのかなと思います。そういう点でも大きさも重要ですし、ずっと手元に置くか、読みやすさを重視して大きなもので保管してもらうかでケースバイケースになります。

鈴木委員：３１、３２ページの地図は国見町全体の地図に番号をふったものになりますか？

石澤補佐：そうです。

山中委員：町の観光パンフレットに倣って見やすいように、大きさの関係でもあまり小さいとわかりづらいので今の大きさでいいのかと思います。

柴田会長：見やすさという点で工夫を続けていただくということで他にご意見はありますか。

中村委員：予防接種なのですが上の子が１歳半まで福島市に住んでいまして、今の状況はわかりませんが接種の種類によって生ワクチンをしたとき何日空けなくてはならないという説明が三行四行ありました。生ワクチンだと空けなければならない等の一文が１～２行あると、初めての産後のときは全くわからないので一回打った後に次いつできるのか、それがあれば最初の出産後もわかり易いのではないかと思います。

柴田会長：第一子出産時の配慮ということで貴重な意見いただきました。事務局として反映させることは出来ますでしょうか。

石澤委員：福島市などを参考にしながら検討させていただきます。

柴田会長：ほんの少しの視点かもしれませんが、不安な保護者にとっては貴重な情報になりうると思います。ご検討をよろしくお願いします。

藤田喬士委員：これを見るのは若いお父さんお母さん、両親が外に出ているときはおじいさんおばあさんが見ると思います。丁度この大きさが良いと思います。字の大きさきなども考慮されていると思います。目次についてですが、応急点、事故、あるいは誤飲など子どもの飲んだ食べた等事故がよくあります。急な子どもの病気というところで、応急手当だとかこういう事故が多いだとか注意する旨があってもいいのではないかと思います。

もう一つ、一覧表をみますと非常に細分化されていまして素晴らしいと思います。しかし、見る角度としては細分化されすぎているのではないかと思いました。この８つに細分化され

たものは大きく３つくらいに分けてもいいのではないかと思います。例としては子育て世代への支援、健康診断と子育てに関する事業、サポートに関することで３つくらいに分けられるかなと思います。もう一つ、母子手帳についての項に父子健康手帳、お父さん用のものがあってもいいのではと思います。子どもを授かり父親にもできることがあるとおもいます。分娩の方法など父子手帳に網羅されていると、これから父、母になる世代はマニュアルを活用できる世代になるので、こういうものがあるとより親切であると思います。

柴田会長：急な子どもの病気やけがのところに応急手当等の対処法を入れる、一覧表の細分化について細分化しすぎない配慮としてカテゴリ分け、父子手帳という視点、３つについて事務局からお願いします。

中田課長：応急手当等は、緊急時に見てもらう目的として最適だと思います。盛り込んで行きたいと思います。一覧表については項目で分けたほうが一目で見やすいと思いましたので検討していきます。父子手帳については大変貴重なご意見だとお思います。実際に父子手帳というものの存在がわからなかったので調べてきます。

藤田喬士委員：私の出身である白河市には父子手帳というものがあります。

柴田会長：父子手帳と言う名前を冠していなくてもガイドブックの中にお父さんの参加の仕方、今の時代子育ては手伝いではなく参加なので、当然一緒に子育てという視点の助けになるようなガイドラインがあると良いと思います。父子手帳の前段階、ステップアップとしてご検討いただけたらと思います。

八巻委員：出来ることならばティータイム等のページに子育てとしつけと虐待は違うと、いわゆる虐待防止の内容を載せてほしい。最近の虐待事件などあってはならないことがあり、そのようなことも予防線を張ってほしい。

柴田会長：しつけと虐待が違うという認識を持てないから虐待が起こるわけで、そこでガイドラインということで、ガイドブックに限らずそういった視点を町のほうでもご検討いただいて更なる包括的な支援ということで、見守る、と言う視点をどこかで盛り込んでいただければと思います。またそれをご報告いただければと思います。事務局のほうからいかがでしょうか。

岡﨑教育長：報道を見ても心が痛くなりますし、国見町に限らず色々な父母がいらっしゃり、子どもにとって行き過ぎたことをしつけと考える方がいることは事実と思います。このことをみんなで考えるきっかけを私達で作っていかなければならないと思っていました。ガイドブック作成時にこのことも包括していなかったので、色々な場面で工夫して取り入れていきたいと思いました。検討させていただきます。

（５）第２次国見町子ども・子育て支援計画策定に係るニーズ調査について

事務局より説明

柴田会長：確認ですが配布日が２月２０日とのことですが内容のほうは本日審議した内容を反映していただけるのでしょうか。

石澤補佐：反映させたいと思います。

柴田会長：委員の皆様からご意見などございましたらお願いします。こちら家族の状況について記入欄がありますので記名となりますか。封書にも記名になりますか。

石澤補佐：アンケート送付時は記名ですが、提出時は無記名になります。

藤田喬士委員：病児・病後児のための保育施設についての内容がありますが、この調査を通して開設を

視野にいれるということでよろしいですか。

中 田 課 長 ：今でもしたいのですが、専門職の方がいないことが一番大きいです。

藤田喬士委員：藤田病院にそういった施設はあるのですか。

菊地勝彦委員：病児を受け入れる環境は無いです。

藤田喬士委員:私達の自治体は行っていたが利用者が少なく何年か前に閉鎖して大玉村に任せています。大玉村のほうも利用者は少なく、大玉村の場合病児でなく病後児、回復期にある子どもの預かりなので国見町はどういった考えなのか質問させていただきました。

中 田 課 長 ：病児というと難しいと思います。私達が考えているのは、熱が出てなかなか迎えに来ることが出来ない、病後であればある程度回復してもう少しという場合についての預かりになります。病児と言うのは難しいと思います。

柴 田 会 長 ：調査の規模について概算で結構なので教えていただきたいです。小学生、就学前のお子さんはどのくらいいらっしゃいますか。

石 澤 補 佐 ：未就学児が２７２名、小学生が２７６名になります。未就学時で兄弟がいる家庭は一人だけ小学校でも兄弟関係があれば一人。

中 田 課 長 ：そうすると人数はすごく少なくなってしまうので三人以上お子さんがいる家庭で年齢近い方は調整、年齢が離れている三人兄弟の家庭ではお答えいただくとしております。

柴 田 会 長 ：その数を踏まえて未就学児が２７２名、小学生が２７６名ですか。

中 田 課 長 ：もっと少なくなり２４８名くらいになります。

柴 田 会 長 ：小学校と合わせて５００前後になり、回収率がどのくらいかによりますね。

中 田 課 長 ：設問が多いので、子どもが多い保護者の方の負担が大きいかと思います。

（６）その他

なし

５． 閉会

岡﨑教育長：幼稚園を実際に見ていただいた上で協議ということで、ご協力いただきありがとうございます。国見町は先ほど話したように、幼稚園、保育所、小学校、中学校がありますが、民間施設は皆無で全て町営になります。そういった中で子ども達にとってより良い環境、親にとっても良い環境を作っていければと思っております。少子化により財政も厳しくなっているということもあり、思い通りに出来るわけではないのですが、出来るだけ頑張っていく所存です。これからもいろいろとご協力をお願い致します。